

第2章 原始・古代の日本と世界

学習を始めよう ～原始・古代の暮らしと社会～

教科書 p. 18～19

Q1 「縄文時代の人々」と「古墳時代の人々」の想像図には、何をしている人が描かれているでしょうか。

- 「縄文時代の人々（想像図）」を見て考えよう。

人々は、それぞれ何をしているだろう。できるだけたくさん書き出してみよう。

木の実を採っている。狩りで捕った獣を運んでいる。漁をしている。

魚を干して保存食を作っている。土器で料理をしている。

家を建てている。木を削って船や道具を作っている。弓や、やりを作っている。

土で器を作って焼いている。布を織っている。

など

- 「古墳時代の人々（想像図）」を見て考えよう。

人々は、それぞれ何をしているだろう。できるだけたくさん書き出してみよう。

たくさんの石を運んでいる。石を地面に敷き詰めている。

穴を掘って、筒状のもの（はにわ）を並べている。

設計図を確認している。

他の人に指示を出している。

など

Q2 縄文時代と古墳時代の器や像を比べると、どのような点が違っているでしょうか。また、なぜ変化したのでしょうか。

- 「土偶」と「埴輪」を比べてみよう。

「土偶」と「埴輪」はそれぞれ、何を表現していて、何の目的で作られたのだろう。

また、どのような点が違っているかな。

土偶は、女性（妊婦）を表していて、豊かなめぐみを願って作られた。

埴輪は、兵士を表していて、古墳に並べられた。

土偶は赤っぽい茶色なのに対し、埴輪は黄色がかった茶色である。

など

- 「縄文土器^{どき}」と「須恵器^{すえき}」を比べてみよう。

色、厚さ、形などを比べよう。どのような点が違っているかな。

Q1の絵を参考にして、作り方や使い方も想像してみよう。

縄文土器は茶色で、縄で模様がつけられている。絵の中では、手で形を整えて、焼いて作っている。食べ物を保存したり、煮たりするのに使われた。

須恵器は、灰色で、縄文土器より薄い。表面がなめらかなので、ろくろを使って作ったのではないかな。など

- 「土偶」から「埴輪」、 「縄文土器」から「須恵器」へと変化した背景について想像してみよう。

兵士の複雑な形を表現したり、薄い器を作ったりしているので、技術が発達したのではないかな。

兵士の埴輪が登場したので、争いがおこったり、戦う人々が現れたりしたのではないかな。など

- Q3 縄文時代から古墳時代にかけて、社会はどのように変化したのか、予想してみましょう。

小さなムラから大きなクニへと発展し、より多くの人々がまとまって暮らすようになった。

食料の生産が安定したり増えたりして、蓄^{たくわ}えをもつようになると、貧富の差や身分の区別が生まれ、ムラやクニを従える支配者が現れた。

支配者の統率のもと、大人数で協力して、大きな古墳を作ることもできるようになった。など

→縄文時代については教科書 p.30～31 で、
古墳時代については教科書 p.34～35 で、くわしく学習するよ。